橿原市廃棄物減量等推進審議会議事録

会議名	平成 30 年度第三回橿原市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成 31 年 2 月 8 日（金） 午前 10：00～11：15（1 時間 15 分）
開催場所	クリーンセンターかしはら 3F 研修室
出席委員	川上委員、米田委員、仲川委員、村田委員、安田委員、中村委員、新宅委員、鶴田委員、上農委員、紙本委員、当麻委員 以上 11 名
欠席委員	森本委員 1 名
事務局	環境づくり部：森鷲部長、塩野副部長 環境企画課：高橋課長、西村統括調整員、梶井主査、松尾主査、吉村主事 環境業務課：奥田課長、服部課長補佐 環境保全課：吉川課長、瀬尾課長補佐 環境衛生課：井上課長
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長挨拶 3. 審議 <ul style="list-style-type: none"> ・ 橿原市一般廃棄物処理基本計画の改定について 4. 報告 <ul style="list-style-type: none"> (1) 雑がみ分別モデル事業について (2) かしはらごみ分別アプリについて (3) 一般廃棄物（可燃ごみ）の広域処理について 5. その他 6. 閉会 <p>(配布資料)</p> <p>平成 30 年度第三回橿原市廃棄物減量等推進審議会次第</p> <p>【資料 1】 橿原市一般廃棄物処理基本計画（案）に対するパブリックコメントの募集結果について</p> <p>【資料 2】 橿原市一般廃棄物処理基本計画（案）〔概要版、全文〕</p> <p>【資料 3】 雑がみ分別モデル事業の実施結果について</p> <p>【資料 4】 ごみ分別アプリ案内リーフレット</p>
傍聴人数	1 人
担当部署 (事務局)	環境づくり部 環境企画課 〒634-0826 奈良県橿原市川西町 1038-2（クリーンセンターかしはら） TEL：0744-27-7757／FAX：0744-27-7753 E-mail： kankyokikaku@city.kashihara.nara.jp

次第 1 : 開会

次第 2 : 会長挨拶

次第 3 : 審議

○ 檀原市一般廃棄物処理基本計画の改定について

平成 30 年 1 月 26 日から 1 月 25 日まで実施したパブリックコメントの募集結果について事務局より報告。提出された意見内容と、意見に対する回答案について審議。これを踏まえて、計画の加筆修正の必要性について審議したところ、原案のとおりとすべきであるとの結論を得た。

次第 4 : 報告

○ 雑がみ分別モデル事業について

今年度の雑がみ分別モデル事業の結果について、資料 3 を用いて事務局より報告。

<以下、本報告における意見等>

(委員)

1 2 月の回収量が他の月の倍以上になっている。何か特別な働きかけを行ったのか。また、今後は広報活動に力を入れるということであったが、具体的にどのような活動を行う予定なのか。

(事務局)

1 2 月の回収量は、年末の大掃除などの片づけにより多くなっているものと思います。市から何か特別な働きかけを行ってはいません。

雑がみ分別の取組を水平展開するにあたっては、これまでの単一の団体を対象としたモデル事業では市全域に行き渡るまでに時間がかかるので、自治連合会の地区単位で展開させていただきたいと考えています。相手がある話ですので、2 地区程度お願いをして、進めていきたいと思っています。

(事務局)

毎年3月に、全世帯に配布させていただいているごみの分け方・出し方へも、雑がみについて掲載させていただいており、こちらでも周知啓発を図っていきます。

○ かしはらごみ分別アプリについて

1月4日に導入したごみ分別アプリについて、資料4を用いて事務局より報告。

○ 一般廃棄物（可燃ごみ）の広域処理について

高取町、明日香村と一般廃棄物（可燃ごみ）の処理に関する協定書を締結したことについて事務局より報告。

<以下、本報告における意見等>

(委員)

事業系ごみでは、中国の廃プラスチック輸入禁止など、急激な変化が起きている。事業系ごみについてはどの程度受け入れをしていく考えか。

また、一般廃棄物と産業廃棄物の区別が明確でなく難しい。肉を包んでいたラップなど、臭いが付いていれば産業廃棄物として受け入れてもらえない場合もある。事業者の困っているところを受け入れてもらえるのか。

(事務局)

事業系一般廃棄物については現在でも処理を行っています。また、事業活動に伴って生じた廃プラスチックはすべて産業廃棄物になります。ただし、ごみ排出の際のツールとして使われるビニール袋や、分離不能な細かなプラスチックについては、本来は産業廃棄物ではありますが、混然一体となった廃棄物を改めて分別することは困難かつ非効率ですし、規制によりごみが散乱し環境悪化を招いては本末転倒ですので、生活環境の保全、公衆衛生の向上という廃棄物処理法の趣旨に照らし、また法が許容する範囲のものについて、本市では事業系一般廃棄物として処理をしています。

(委員)

私も事業をやっているが、事業で出るごみは全て産業廃棄物として処理し、家庭から出るごみは市の収集を利用している。それが世の中の常識ではないかと思う。

(事務局)

一般の方には、事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区別は難しいと思います。特に産業廃棄物は品目指定に加えて業種指定があるものがあります。例えば紙くずについては、通常の事業者から排出された場合は一般廃棄物ですが、製紙会社から排出された場合は産業廃棄物になります。同じ物でも、排出された局面や内容によって、一般廃棄物になったり産業廃棄物になったりします。

(委員)

全国的にそのような判断がされるものなのか。

(事務局)

法律で決まっています。ただ、なかなかきちんと区別した処理を行うのは難しく、法律と現実と隔たりが存在していることを認識していただいた上で、法律の許す範囲内で、事業者の方が円滑に事業活動をしていただけるような取組として我々に何ができるか、考えて選択していくのが妥当かと思います。

(委員)

処理手数料の料金設定と、広域処理による経費削減との関係性について説明していただきたい。

また、パブリックコメントの提出者に対してどのように返答を行うのか。

(事務局)

パブリックコメントの回答は、市のホームページにて結果を公表し、資料1の報告書を添付します。

高取町と明日香村からのごみ受入については年間1,400トンずつ、計2,800トンを1トンあたり3万円で受け入れます。この手数料収入に加え、廃棄物発電による売電収入が別途発生し、これらの合計から経費を差し引いて年間約9,000万円のメリットが生じると算出しています。手数料額の設定は、現在受け入れを行っている吉野広域行政組合と同額の、1トンあたり3万円にしています。

(委員)

田原本町のごみ受け入れを平成28年度に行っているが、これはなぜか。また、積極的に

近隣市町村のごみを受け入れる方向で考えているのか。

(事務局)

田原本町は、平成29年度からやまと広域環境衛生事務組合での処理を計画していましたが、当時運営していた処理施設で平成29年度の直前に施設トラブルが発生してしまったため、緊急で援助した形です。

また、ごみ処理は地域で行われた生活や経済活動などのしわ寄せである面もあり、積極的に受け入れを行うものではないと考えています。一方でごみ処理量が少なくなりすぎると、施設の安定運転に支障が生じます。加えて経済や環境などの側面も考慮した結果、今回は広域処理の方向で進めさせていただきました。このように、ごみ処理については広い視野で考える必要がありますが、積極的に他市町村のごみを受け入れしていく性質のものではないと考えています。

(委員)

ごみ分別アプリの外国語版を外国人にどのように周知しているのか。また、ごみ処理において、外国人に関するクレームが発生しているか。トラブルを防ぐためには、前もって対策をしておくことが大切である。

(事務局)

ご意見はおっしゃるとおりだと思います。今回の外国語版アプリはそういったことに配慮したものです。今後、市民の方にお知らせするとともに、外国人の方にも見ていただけるようご用意していますし、一時的に滞在される方に対しても案内できるよう対応していきたいと思います。

(委員)

平成14年から稼働している明日香村の焼却施設が老朽化しているという話があったが、平成17年から稼働しているクリーンセンターかしはらは大丈夫なのか。

(事務局)

施設の規模や設備内容が大きく異なる上に、長寿命化計画を策定し計画的なメンテナンスも実施しているため、耐用年数はもっと長くなります。平成49年度までの稼働を予定しています。

(委員)

田原本町は樫原市と隣接しているのに、やまと広域環境衛生事務組合に入っているのはなぜか。

(事務局)

施設の老朽化が進み、建て替え時期と組合設立の時期が近かったため、現在の組合の形になったのではないかと考えています。

次第5：その他

環境づくり部長 森島より、基本計画の審議についてお礼の挨拶と、来年度の審議会の見通しについて説明。

次第6：閉会

川上会長より、基本計画の審議と審議会運営についてお礼の挨拶があり、その後、閉会宣言。